

1-(1)-② 教育上の目的

<b>大学の基本使命</b>
<p>芸術を学ぶ者たちが、来るべき文明の姿を思い描き、人類危機の時代を克服するという強い意志をどう身につけるか。そしてまた、他者の痛み想像力を働かせ、多くの人々の幸せのために芸術の力を用いる姿勢をどう培うか。すなわち、良心をもって社会を変革する芸術家魂をどう育てるか。</p> <p>芸術立国とは、芸術立国を担う人間の成長にほかならない。芸術文化を原動力とする文明への展望と、人類と自然への深い愛情に満ちた哲学を持った人間を輩出する。それこそが、本学の最も重要な使命である。</p>
<b>建学の理念</b>
<p>芸術と哲学によって、新しい人間観、世界観の創造を目指す。</p>
<b>教育目標</b>
<p>人類が直面する困難な課題を克服するために、「人間力」と「創造力」を鍛え、社会の変革に役立てることができる人材を育成する。</p>

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
芸術学部	<p><b>【ディプロマ・ポリシー】</b>          京都芸術大学学士課程は、「芸術立国」を基本使命とし、教育目標に定める社会の変革を担うことのできる人材の育成を目的として、自立したひとりの人間として生きるための「人間力:知識/思考力/行動力/倫理観」と、芸術の力を社会のために生かす「創造力:発想力/構想力/表現力」を身につけるべき力として、その修得をめざします。</p> <p>「人間力」          知識:人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる          思考力:正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる          行動力:設定した課題に対し、自らを律しながら他者と共に粘り強く継続的に取り組むことができる          倫理観:自らの良心に従い、社会のために芸術・デザインの力を生かすことができる          「創造力」          発想力:豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめることができる          構想力:概念・イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる          表現力:テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b>          京都造形芸術大学通学部学士課程のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、それらを構成する7つの能力をバランスよく身につけることができることを方針としています。</p> <p>「創造力」は豊かな想像力をもって新しいもの・ことを創りだす力          ・好奇心をもって世界を観察し、知を求め発見することができる「探求力」          ・ものごとの関係性を見つけ、経験や知識をもとに考えることができる「思考力」          ・独自のイメージを発想し実現に向けて計画することができる「発想・構想力」          ・イメージやコンセプト、プランをさまざまな方法でかたちにできる「表現力」</p> <p>「人間力」は自立したひとりの人間として他者を肯定しともに生きていく力          ・みずから積極的、社会的に行動することができる「行動力」          ・目標に向かって、あきらめることなく続けることができる「継続力」          ・他者を知り協調し、よりよい関係を築くことができる「コミュニケーション力」</p> <p>カリキュラムは、「創造学習科目」「専門教育科目」をその二本の柱としており、それらを構成する各科目の編成方針は次のとおりです。          ・「創造学習科目」には、「創造力」「人間力」の基盤を形づくる「創造基礎科目」、これからの学習に必要な教養や基礎力を身につける「基礎教養科目」「応用教養科目」、自分自身のキャリアをイメージし、それを現実に変えていく力を獲得する「キャリア創出科目」が含まれます。          ・「専門教育科目」には、学生一人ひとりが目指す専門的な目標を達成するための「専門科目」、学生のキャリアを資格面でサポートする「教職科目」「学芸員科目」が含まれます。</p> <p>また、カリキュラムの運営にあたり、上記7つの能力を、各科目の運営の指針とし、かつ評価指標とします。また、学生一人ひとりの習熟度、キャリアプランに応じた履修指導・学習指導を行います。</p> <p><b>【アドミッション・ポリシー】</b>          京都造形芸術大学芸術学部のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに掲げる「創造力」「人間力」、およびそれらを構成する「7つの能力」を身につけようとする意欲と素養を持った人の入学を期待しています。そのため、入学までに以下の能力や態度を身につけた人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯を通じて学び続けるための基盤としての基礎的・基本的な知識・技能を習得した人</li> <li>・知識・技能を活用して、答えが一つに定まらない課題を解決できる思考力・判断力・表現力を習得した人</li> <li>・主体性を持って積極的、社会的に多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた人</li> </ul> <p>上記を身につけた多様な入学希望者を評価するために、表現技術の優劣だけにとらわれない、多角的な評価基準を備えた入学試験を実施します。</p>

1-(1)-② 教育上の目的

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
<p>大学院 芸術研究科 芸術専攻 (修士課程)</p>	<p><b>【ディプロマ・ポリシー】</b> 修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できる人材を育成します。 さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。</p> <p>・既存の価値観にとらわれることなく、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめる能力(「修士(学術)」授与の場合)。 ・自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力(「修士(芸術)」授与の場合)。</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b> 京都芸術大学芸術学部(通学課程)のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに掲げる「人間力」と「創造力」、それらを構成する7つの能力を、段階的・体系的に身につけることを方針とし、芸術・デザインを学ぶ上で必然であるPBL(Project-Based Learning)型演習に加え、社会連携による実践的な教育プログラムの充実を特色としています。カリキュラムは、「芸術教養科目」と「学科専門科目」を2本の柱としており、それらを構成する各科目の編成方針・内容は次のとおりです。</p> <p>(1)初年次教育は、学部全学科の混成クラスにより、多様な学生がともに本学で学ぶ意義・目的について考え共有することで、学習意欲の形成と主体的な学習のための下地を作ります。「クリエイティブワークショップ」、「ことばとコミュニケーション」、「デッサン演習入門・基礎」、「リサーチ&amp;リテラシー入門」等、多様な科目が開講され、それぞれの学生の自主的な選択により、主体的な学びへの導入を行います。</p> <p>(2)芸術教養科目は、初年次教育に含まれる科目に加え、基本的リテラシーを修得する「創造基礎科目群」、これからの学習に必要な教養や基礎力を身につける「芸術教養科目群」、日本文化の深い精神性を体験する「日本文化科目群」で構成されます。芸術教養科目群には、各学科の特徴ある専門講義が他学科開放科目として開講され、自身の学科・専門領域を越えて幅広く学ぶことができます。</p> <p>(3)学科専門科目は、専門的知識と基本技能の修得を目的とした講義と演習による基礎課程と、より実践的な演習を中心とした応用課程によって構成され、特に応用課程では、各学科の独自性を生かしながら、実社会との関わりを意識させる、社会実装演習を常態化することで、学生の能動的取組み姿勢とアウトプットを高いレベルで引き出す教育を行います。</p> <p>(4)進路教育は、クリエイティブな資質を身につけた人材を世の中に送り出すことで、社会の変革を目指す「芸術立国」を理念とする本学にとって重要な柱です。入学時のガイダンスから、1・2年次のキャリア研究基礎・実践、3年次の実践的対策特講等の正課授業に加え、年間を通して行われる担当教員との面談、3年次からの各種キャリア支援講座まで、一連のプログラムとして有機的に構成されています。このプログラムを通して、本学で学んだ芸術・デザインの知識と技能を、学生自らの人生と社会のためにどう生かすかについてきめ細かく指導します。</p> <p>(5)成績評価は、それぞれの授業への2/3以上の出席を要件として、「筆記試験」、「レポート課題」、「提出作品」、「授業で発揮されたパフォーマンス」等を評価の対象として、全学共通の「成績評価に関するガイドライン」に基づき厳格に行います。また、修得単位の数だけでなく、質を表す指標としてGPA(Grade Point Average)を活用し、学修成果を多面的に評価します。</p> <p><b>【アドミッション・ポリシー】</b> ・豊かな感性と柔軟な思考を有し、学士課程の基礎をふまえ、各自の専門領域を構築して造形思想を深めるための能力を有していること。 ・芸術に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な思考とコミュニケーションの能力を有していること。 ・日本語と英語の読解力・表現力を有していること。</p>

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
<p>大学院 芸術研究科 芸術専攻 (博士課程)</p>	<p><b>【ディプロマ・ポリシー】</b> 博士課程では、人類の叡智を発展的に継承し、芸術・文化に関する優れた理論研究または研究・制作に邁進し、その成果を国際社会に広く発信することによって、芸術による平和創造の礎を築く人材を育成します。 ・理論研究においては、芸術による平和創造に寄与する価値観の構築をめざし、既存の学問分野にとらわれることなく、幅広い視野と斬新な視点によって芸術文化の神髄に迫る能力の獲得を目指します。 ・芸術表現・制作においては、柔軟な思考と斬新な技術によって創造の地平を切り開き、真に現代的な芸術表現に挑み続ける能力の獲得を目指します。</p> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b> ・徹底した個別指導を基本とし、研究者／制作者としての自立を促します。 ・研究発表・展覧会での作品発表を積極的に促し、多くの視点からの批判を仰ぐことにより、研究／制作の質的向上を図ります。</p> <p><b>【アドミッション・ポリシー】</b> ・豊かな感性と柔軟な思考を有し、学士課程の基礎をふまえ、各自の専門領域を構築して造形思想を深めるための能力を有していること。 ・芸術に関する基礎的な教養を有し、的確で論理的な思考とコミュニケーションの能力を有していること。 ・日本語と英語の読解力・表現力を有していること。</p>

1-(1)-② 教育上の目的

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
通信教育部 芸術学部	<p><b>【ディプロマポリシー (DP)】</b>            京都芸術大学学士課程は、「芸術立国」を基本使命とし、教育目標に定める社会の変革を担うことのできる人材の育成を目的として、自立したひとりの人間として生きるための「人間力:知識/思考力/行動力/倫理観」と、芸術の力を社会のために活かす「創造力:発想力/構想力/表現力」を身につけるべき力として、その修得をめざします。</p> <p>「人間力」            知識:人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる            思考力:正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる            行動力:設定した課題に対し、自らを律しながら他者と共に粘り強く継続的に取り組むことができる            倫理観:自らの良心に従い、社会のために芸術・デザインの力を活かすことができる</p> <p>「創造力」            発想力:豊かな感性からの直感を、概念・イメージなどにまとめることができる            構想力:概念・イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる            表現力:テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる</p> <p><b>【カリキュラムポリシー】</b>            京都造形芸術大学通信教育部学士課程のカリキュラムは、「創造力」と「人間力」を高めるために、「総合教育科目」「学部共通専門教育科目」「コース(学科)専門教育科目」で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合教育科目では、教養ある市民の備えるべき基本的な知識、視点、リテラシーを学び、他者とのつながりを尊重する力を磨きます。</li> <li>学部共通専門教育科目では、芸術を学ぶものにとって基盤となる知識、見識、技能を養い、ひとりひとりの生活環境を芸術によって充実させる力を養います。</li> <li>コース(学科)専門教育科目では、それぞれの分野における専門性を獲得し、旧来の価値観に囚われない芸術的創造を生み出し、世界各所へ送り届ける力を身につけます。</li> </ul>

学部・研究科等	教育課程の編成方針／学位授与方針
大学院 芸術研究科 (通信教育) 芸術環境専攻	<p><b>【ディプロマポリシー (DP)】</b>            修士課程では、芸術・文化に関する広範で清新な知識を基礎にして、社会や自然における芸術の意義と役割を認識するとともに、個別の専門領域において発見した独自のテーマを柔軟かつ論理的な思考によって展開し、高度な成果物として表現できる人材を育成します。</p> <p>さらに、学位の種別に応じて、次の能力の獲得を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の価値観にとらわれないことと、新たな視点による学際的研究に取り組み、その成果を学術論文としての確にまとめる能力(「修士(学術)」授与の場合)。</li> <li>自己と他者、芸術と社会、個と全体の関わりについて真摯に向き合い、高度な意志疎通能力と呈示能力を備え、作家、研究者などの専門的職業人や芸術的手法を駆使する社会人として、芸術分野の将来的発展に寄与する能力(「修士(芸術)」授与の場合)。</li> </ul> <p><b>【カリキュラム・ポリシー】</b>            修士課程(通信教育)のカリキュラムは、ディプロマポリシーを達成するために「専攻共通科目」「分野特論」「研究指導科目」で構成されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻共通科目では、社会や自然における芸術の意義についての認識を獲得します。</li> <li>分野特論では、専門分野に関する知見を深め、研究制作を行うためのさまざまな技能や方法を身につけます。</li> <li>研究指導科目では、独自性ある研究制作を自律的に遂行し、明瞭な形で呈示する能力を身につけます。</li> </ul>